核心古文単語 ① 火 の ②はぢがましく心憂きことのみありて、果ては許さぬ物ども押し取りて、 ⑦かかる末々のもよほしになん、 ⑥しばしありて、にはかにかい曇りて、 ⑤幣などわざとがましく ④また異所にかぐや姫と申す人ぞおはしますらむ。 ③世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くはみな虚言なり。 ②少将情けなう恨めしけれども、 火の 次の傍線部の現代語訳を、 ぞ出でられける。 F F (1) 「今宵ぞ安き寝は寝べかんめる。」と、うちささめくも、忍びたれど、ほどなければ、 F F 「今晩こそ安眠できそうです。」と、 F \overline{r} が悪い〕 ていて」 匂ってくるようにたいた香〕 第三回古文単語テ ほのぐらき方に向かつて、やはらこの刀を抜き出だし、 目の前が暗くなっ たいそう恐れ多く 憎らしそうで 見間違い 空になった部屋 何ともやりきれない 間違った場所 〕嫌なことばかりあって、ついには許可もしていない物をいろいろ奪い取って、 2 〕ほうに向かって、おもむろにこの刀を抜き出して、 イ 2 3 さ、 記憶違い 1 イ かの小袿も遣はす。 全文訳の文の空欄に補いなさい。 1 イ 別の場所 1 特別に心遣いしたようで ス なまはしたなきまで思ひ知らるる折も侍りける。 4 イ わざとらしく匂わす線香 人もこそ見れと空おそろしう思はれければ、 真っ暗になっ たいそう恐ろしく ひそひそ言うのも、 少々みっともない 雨になりぬ。 ウ 組 (3) (5) うそ ウ 知らない 号 番 (6) 工 こっそり言っているのだが、 急に暗くなっ ウ 所 聞き間違い〕 ウ 【記述問題】 何となく恐れ多く ウ 7 名 前 工 何となくきまりが悪い ことさらめい あてにならない 思った 工 所 次第に曇っ〕 てい 急ぎこれをとつて懐に入れて 物 7 工 工 狭いので、 ほの聞こゆ。 (20-04-27 - 05-08)【選択問題】 何となく恐ろしく〕 どこからともなく 工 得 点 工 P302 むやみに間 ったいぶっ 尚文 \gimel°

第三回古文単語テス

解答

(20-04-27 $\sim 05-08$)

次の傍線部の意味として適当なものを、 後の選択肢の中から選んで符号で答えなさい。 【選択問題】

)空薫き物にしみたる几帳にうち掛けたる袴など、いみじうたづきなし。

F 匂ってくるようにたいた香〕 空になった部屋 1 わざとらしく匂わす線香 ウ あてにならない物 工 どこからともなく

②少将情けなう恨めしけれども、 ぞ出でられける。 人もこそ見れと空おそろしう思はれければ、 急ぎこれをとつて懐に入れて

F たいそう恐れ多く イ たいそう恐ろしく ウ 何となく恐れ多く 工 何となく恐ろしく〕

③世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くはみな虚言なり。

記憶違い

F

見間違い

イ

ウ

うそ

エ

聞き間違い〕

④また異所にかぐや姫と申す人ぞおはしますらむ。 知らない

⑤幣などわざとがましく さ、 かの小袿も遣はす。

間違った場所

1

別の場所

ウ

所

工

思った所〕

F 憎らしそうで 1 特別に心遣いしたようで ウ ことさらめいてい 7 工 ったいぶっ

ていて」

⑥しばしありて、にはかにかい曇りて、 雨になりぬ。

7 目の前が暗くなっ 1 真っ暗になっ 急に暗くなっ エ 次第に曇っ〕

⑦かかる末々のもよほしになん、 なまはしたなきまで思ひ知らるる折も侍りける。

F が悪い〕 何ともやりきれない イ 少々みっともない 何となくきまりが悪い 工 むやみに間

次の傍線部の現代語訳を、 全文訳の文の空欄に補いなさい。 【記述問題】

① 火 の ほのぐらき方に向かつて、やはらこの刀を抜き出だし、

火の 〕ほうに向かって、おもむろにこの刀を抜き出して、

②はぢがましく心憂きことのみありて、果ては許さぬ物ども押し取りて、

〕嫌なことばかりあって、ついには許可もしていない物をいろいろ奪い取って、

「今宵ぞ安き寝は寝べかんめる。」と、うちささめくも、忍びたれど、ほどなければ、 「今晩こそ安眠できそうです。」と、 ひそひそ言うのも、 こっそり言っているのだが、 狭いので、 ほの聞こゆ。 \gimel°

	$\vec{-}$	_
	1	1
	薄暗	Н
	V	2
		Н
	2	3
うな	恥ず	ウ
	かしい	4
	いよ	イ
	3	(5)
える	かす	イ
	かに	6
	聞こ	ウ
		⑦ ウ
		ウ